

大阪の若者 農業に汗

就労支援プログラム 泉佐野市から研修生

育てたリンゴ 納税返礼品に採用

弘前

就農を希望する大阪府泉佐野市の10〜30代の若者4人が1日から14日まで、弘前市のリンゴ加工会社で就農研修に臨んでいる。国の地方創生事業を活用した就労支援プログラムの一環。研修1週間目となる7日は、短期研修の5人が新たに加わり、先輩たちの作業の様子を見学した。

(秋元宏宣)

就農研修は「都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業」で、弘前市と泉佐野市の共同提案で昨年採択された。泉佐野市の若年未就職者を弘前市のリンゴ農家に

に派遣し、都市の若者の就労を支援するとともに農業現場の人材不足解消につなげるのが狙い。研修は2週間の長期と2泊3日の短期に分けて行われ、長期研修の第1陣が1日から、弘前市のイーエム総合ネット弘前(今井正直代表取締役)に住み込み、研修生活を送っている。



【写真上】リンゴの荷出し作業をする長期研修生たち
【同下】剪定後の枝集めをする短期研修生ら

1週間の研修では、剪定枝の片付けや農業用ハウス建設などを体験。7日は選果場でリンゴの箱詰めや積み出しに汗を流した。研修生の谷洋介さん(24)は「雪の中の作業は過酷だが寒さを利用した作物づくりをしていて、自然を生かした農業が印象的」と話し、中島飛鳥さん(19)は「大阪の野菜栽培と違って、やるのがたくさんある。リンゴの収穫もしてみたい」と意欲的に語った。この後、短期研修生5人も加わり、近くの園地で剪定枝の片付けを行った。

研修生に同行した泉佐野市政策推進課の今西紀彰係長は「弘前市とは長い付き合いをお願したい」と述べ、今秋からふるさと納税の返礼品に弘前産リンゴを採用することを表明。「泉佐野の若者が育てたリンゴ」を提供するといっ

就農研修は2016年度も継続し、来年度は泉佐野市から年間約60人の研修生を受け入れることにしている。